

あらゆる場所を
ロケーション
候補地に



羊ヶ丘展望台



大倉山ジャンプ競技場



前田森林公園



札幌でのロケーションには 皆さんも気軽に参加を

ロケーションを円滑に進めるには、地域の方の協力が不可欠です。撮影場所を探すとき、映像作者や市だけでは情報が限られています。皆さんが知っている場所の情報を提供していただくことで、脚

本に最適な撮影場所を選定しやすくなり、撮影に早く取り掛かることができます。また、ボランティアの協力も非常に大切です。エキストラとしての出演や、撮影場所付近の案内などは、地域の人

このほか、多くのロケーションが行われることで、映像関連産業の振興が見込まれます。現在、市内ではIT（情

報技術）を活用した映像制作が盛んに行われており、その需要も増えていることから、市では、地元を拠点に活躍する映画監督などの活動支援や人材育成にも取り組んでいます。フィルム・コミッション

また、映像として映画やテレビなどで流されると、地域の知名度が飛躍的に向上するという間接的な効果もあります。道内には、富良野市や小樽市のように、撮影に使われた場所が観光地として根付き、街全体に活気もたらされた例があります。

市では、札幌の持つ資源や特性を生かせるこの事業を、観光などの集客交流産業の促進だけでなく、新しい分野の産業の振興、活力ある企業活動の促進の一環としても位置付け、支援していく考えです。

す。その理由の一つとして「経済効果」が挙げられます。撮影期間中、関係スタッフや飲食費などが支払われることにより、地元経済への直接的な効果が生まれます。

また、映像として映画やテレビなどで流されると、地域の知名度が飛躍的に向上するという間接的な効果もあります。道内には、富良野市や小樽市のように、撮影に使われた場所が観光地として根付き、街全体に活気もたらされた例があります。

地域と連携した「札幌フィルム・コミッション」に期待



映像を制作する側から見て、札幌はロケ地として十分な魅力を備えています。一つには、大都市としての景観や自然など、脚本に適したロケ地がまとまっているということ。次に、撮影に欠かせない映像関連会社やホテル、レストランなどの施設が豊富だということです。国内外の各都市と結ばれている新千歳空港が近いという利便性も、重要なポイントとなっています。

皆さんはご存じでしょうか。撮影に携わるスタッフは映画で約30人、テレビドラマで約20人、出演者を加えると約50人にもなることを。制作予算や滞在日数にもよりますが、ロケ地では、国内作品で数百～数千万円、映画先進国の欧米作品では数億円を超える額を消費します。ロケーションが地域にもたらす経済効果はとても大きいのです。

制作スタッフにとって、いろいろな面で苦勞が多い地方でのロケーションを支援してくれる「フィルム・コミッション」は、大変心強い存在です。情報提供のみならず、道や周辺の市町村、市内の各地域と連携しての多角的な支援を「札幌フィルム・コミッション」に期待しています。(談)



竹山 昌利さんプロフィール

1953年静岡県浜松市生まれ。1973年三船敏郎が経営する(株)三船プロダクションに入社。その後、1980年から国際放映、石原プロモーション、大映テレビ、松竹、東映、東宝で数々の作品を担当。1995年プロデューサーとなり、「小さな冒険者たち(東映)」「借王・シャッキング(日活)」「ロビンソンクルーソーを探して(フジテレビ)」などを制作。北海道を舞台とした「マンホール(鈴木貴之監督作品)」も手掛けている。

プロデューサー
竹山 昌利さん